

Lieber Freund

NPO鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

vol.3

発行：NPO鳴門「第九」を歌う会事務局
TEL 088-686-1296 FAX 088-686-7690(浅野)
http://naruto9.web.infoseek.co.jp/ E-mail:naruto_daiku@yahoo.co.jp

2004年6月6日発行

Topics 今年の鳴門第九は待望の山田啓明先生のタクト

情熱的な指揮で、私たちをくいくいと
音楽の渦に巻き込んでくれる山田先生。
山田先生に第九の思い出などご寄稿いただきました。



5月30日のオケ合わせ。
本番を1週間後に控え、合唱団も
オケもじわじわと緊張感が高まります

第九といえばあれはたしか中学生時代、恥ずかしい経験があります。私の故郷の大分でも毎年第九を歌う会が演奏会を開いています(今年も何人が鳴門へみえられるはずです)。ある年、その第九演奏会に、すでにクラシックファンだった私は足を運びました。

たぶん全席自由だったのでしょう、将来指揮者を目指していた？私はホールの前列のど真ん中、

指揮者の足元の席に陣取ったのです。ところが、日頃の猛勉強がそれとも部活の疲れか、第3楽章が始まってウトウトし始め、

汗も飛び取る情熱的な指揮。つい引き込まれ合唱団も汗だくに…

はっと気がついたのは、全曲が終わって会場が拍手に包まれた時でした。たしかすぐ目の前にソリストもいたはずで、今思い出しても赤面のいたりです。

ここで言い訳になりますが、第九は非常に難しい曲です。まず覚えにくい。チャイコフスキーやシューマンなど大して苦もなく覚えてしまえますが、第九は繰り返しやオーケストレーション(楽器の組み合わせ)が「なにもそこまでしなくても」と言いたくなるほどややこしい。もうひとつがテンポの問題でしょうか。あちらを立てればこちらが立たず…と、音楽的にも技術的にも両立しにくい。また正攻法で行くと許されるテンポの幅が非常に狭くなってしまいます。そんな訳で今回は結構楽譜にないテンポの変化を取り入れています。ここは指揮者の自己責任ということで…。お聞きになったみなさん、どこがお分かりでしょうか。

(文：山田啓明先生)



多くの人の思いが結集した舞台に

鳴門第九の皆様。頃安先生を中心に多くの素晴らしい先生方のご指導のもと、6ヶ月にわたる第九練習に情熱をもって参加され、いよいよ晴れの本番を迎えられました。心よりお慶び申し上げます。

「第九日本初演の地」としての誇りを胸に、全国の第九仲間450名と共に舞台一杯に感動の「歓喜の大合唱」を繰り広げてください。

全国の皆様。ようこそ鳴門へ！皆様と歌い続けて15年。長年「鳴門第九」を支えていただき衷心より敬意と感謝を申し上げます。

本番に向かって、裏方として日夜献身的に頑張っているスタッフの皆様、側面から温かく応援して下さる賛助会員の皆様、ありがとうございました。

(全日本「第九を歌う会」連合会会長 亀井 俊明)

“第九グッズ”続々と 待望の第九グッズがこのほど完成！演奏会で皆さんにご披露します

■ 第九リースリング

「第九交響曲」初演の地・鳴門にちなんだワインが登場しました。その名も「第九リースリング」。ドイツを代表するワインの産地であるモーゼル・ザール・ルーパー地域のリースリング種のブドウを使った白ワインです。甘口と辛口の2種類で、ラベル



▲ラベルにはあなたの晴れ姿が



には去年(2003年)の演奏会の写真があしらわれています。価格は2100円(税込)。500本ずつの限定生産です。演奏会会場で販売しますので、記念にぜひお買い求めください。(吉本みどり)

辛口(左):香り高くほどよい辛口。
甘口(右):完熟ぶどうから造ったフルーティーなワイン

■ 第九ネクタイ & スカーフ

大好きな第九をいつも身につけていたい。そんなあなたにぴった



▲シックなデザインに評判も上々。なお、鳴門第九ネクタイ(黄)と渦潮ネクタイは非売品です

りのお洒落なグッズです。ネクタイ、スカーフとも紺とエンジの2色で、楽譜の模様入り。今回は100本ずつの限定販売です。演奏会会場ではネクタイ3000



▲ご夫婦でいかが？
モデルは御存じ浅野ご夫妻です

円、スカーフ3500円(ともに税込)の特別価格で販売します。団体お揃いにしてもいいですね。どうぞお買い忘れのございませんように(笑)。

新連載

Coro Column

第1回「健やかな歌声とは」 コラム:頃安 利秀

昔から「正しい発声の半分は正しい呼吸から、そして正しい呼吸の半分は正しい姿勢から」と言われている。では正しい姿勢とはどんな姿勢をいうのであろうか。歌うことは健康にいい、などと簡単には言うことはできない。歌いすぎて喉をこわした人は数知れない。ところで「健康」の「健」の字の語源をご存知であろうか。人偏は人に関係する、また「彳」は人の動きを

表す漢字を示している。そして「隹」の部分は「筆」を意味する。つまり右手で筆を持つ形である。毛筆を使って文字を書くとき、筆は地球に向かって真っ直ぐに立てることが大切である。そしてその筆は竹でできており中空になっている。こんにやく体操の創始者の野口三千三氏はこういつている。「からだの中が詰まった感じではなく、中空で透き通っており、地球に向かって真っ

直ぐに立っているのが人間の健やかな姿である」と。歌うときの姿勢も同じだと思う。スッキリと地球に向かって真っ直ぐ立って、健やかな歌声で「歓喜の歌」を高らかに歌い上げよう。



著者:頃安利秀先生
頭と体で分かる発声指導で、私たちを導いて下さる頃安先生。研究室には人体模型が転がっているとかいないとか…。鳴門教育大学教授。



「歓喜の歌」に18名の若い仲間——実り多かった中学生の合唱教室

歌う喜びを満喫した合唱教室

大麻中学校 岩佐純子先生

大麻中学校(近藤芳夫校長)では3年前から卒業式で「喜びの歌」を全校生徒で歌っています。板東俘虜収容所でこの曲が日本初演された背景について学習し、わが故郷の先人を誇りに思い、受け継いでいくために心あわせて歌っていこうという願いから始まったこの取り組みは、回を重ねるごとに盛り上がり、良き伝統になりつつあります。

1月中旬、第九の練習が本格的になった頃、中学生の合唱教室にお誘いをいただき、音楽部全員で参加させていただきました。子どもたちは頃安先生のボールを使った楽しい発声で楽に高音を発声する術を身につけ、豊成先生からドイツ語の発音や美しいフレーズを教えていただき、卒業式では歌声の柱となって堂々と歌い上げることができました。さらに今回、本番の演奏会にも出演させていただけることになり、部員一同感激するやら喜ぶやらで、これぞまさに「歓喜の歌だね」と話しています。今回の経験をとおして、子どもたちと共に歌うことの楽しさや、第九を歌い継いでいくことの大切さを改めて感じました。次回の合唱教室を楽しみにしつつ、教えていただいたことを活かして歌い続けていきたいと思えます。

合唱教室に参加して

大麻中学校3年 音楽部部长 森ゆきえ

合唱教室では、ドイツ語の発音やひとつひとつの言葉の意味を詳しく教わりました。ソプラノは高い音もあり、「難しいなあ」と始めは不安でしたが、発声練習を重ねるうちに声を出しやすくなり、楽しく歌うことができました。また、合同練習に参加してその迫力に驚きました。そして、「この歌を歌い継いで来た鳴門の人ってすごい！」と感動しました。今回は一番有名な一部分だけ歌いましたが、これを機会に他の部分も歌ってみたいと思いました。本番は学んだことをしっかりと活かし、心をこめて歌いたいと思います。

▼明るく伸びやかな歌声は、鳴門の第九に新しいエネルギーを吹き込んでくれるはず



鳴門第九に10回以上ご参加いただいた方に感謝状を贈呈

全日本「第九を歌う会」連合会15周年を記念し、全日本「第九を歌う会」連合会並びにNPO法人鳴門「第九」を歌う会から次の団体・個人に感謝状を贈呈することになりました。贈呈式は、本番前日に行います。

全日本「第九を歌う会」連合会加盟団体(10団体)

●日豊「第九を歌う会」連合会 ●多摩市民「第九」を歌う会 ●香川第九合唱団 ●川之江あじさいコーラス(旧コール・プリンセス) ●訓路第九を歌う会エー

ヴィツヒ・ノインテ ●ふくおか「第九を歌う会」有志会 ●津山第九を歌う会 ●富士第九を歌う会 ●岡山第九を歌う有志の会 ●淡路第九を歌う会

長年、第九演奏会にご参加いただいた方(18名)

村津忠久、野口勝人、中島章雄、飯島徳子、清水昭、吉井仁、中西久米子、大武満州男、門田康彦、飛鷹和子、増岡健一、高橋隆子、小池マサ、長岡寛、長沢淑郎、林和子、恩藤哲哉、白髭勝彦(順不同、敬称略)

第3回研修会 栗田美佐さんピアノ演奏会



▲第九本番の交流会にも伴奏で出演していただきます。

平成16年4月21日
於：鳴門市文化会館ホール

北島町出身のピアニスト栗田美佐さんをお迎えして第3回研修会を行いました。

いつもは自分たちが第九を歌うホールで、この日は美しいピアノに聴き惚れました。淀みなく続く三連符の嵐は、お馴染みシューベルト。耳に新しいラッペンマンの現代曲。躍動感溢れる入魂のショパン。調子の悪かったマイクもご愛敬。栗田先生の解説付きで、とても楽しいひとときでした。(文：小川誠)

小川明子先生の発声指導

5月19日、いつものように第九の練習に行ったら、颯爽と現れたのはソリスト(アルト)の小川明子先生。発声練習をみていただけるとは、なんてラッキー♪ 足首ぐるぐる～と体操して、さあ！練習開始……のはずが、先生の美声に、思わず歌うのも忘れて(笑)聴き入ってしまいました。明子先生、みんな少しはうまくなりました？(文：小川誠)



▲三あ、私にいい声の出し方を教えてくれました。

事務局だより

♪準備万端！ご協力ありがとうございました

県外から大勢の“Lieber Freund”をお迎えして行う第九。だからこそ、気持ちよく歌っていただけるよう、前日及び当日の受け入れ態勢や交流会にも心をつくしたい……。そんな第九の伝統をご理解いただき、今年も会員様・賛助会員様からカンパや一筆箋のラッピング、交流会の準備など様々な面でご協力いただきました。おかげで万全の態勢で本番を迎えることができそうです。▲今年の“おみやげ”は一筆箋と鳴門ワカメ



♪神様は遠い……いやしかし！

11月23日の発表会に向け、モーツァルトの『戴冠ミサ』K.317の長調の練習が始まりました。音符を必死に追い、慣れないラテン語にモゴモゴ……神様は空の遥か彼方におわしますようです。それでも、時々はとつとするような素敵な響きがすることがあり、曲の魅力に少しずつハマりつつあります。一緒に歌いませんか？ 特に**男声**の参加を切にお待ちしています。参加申し込みは

事務局(浅野) ☎088-686-1296 まで。

ソリスト・ミニ・コンサート in 交流会 プログラム(歌・伴奏)

1. 松田昌恵/ブッチーニ作曲 歌劇「ジャンニ・スキッキ」より
“私のお父さま”
2. 戸山俊樹/ダリウク作曲「きみを愛す」——
平井康三郎作曲「平城山」
3. 小川明子/ビゼー作曲 歌劇「カルメン」より
“セギアイーリヤ”
4. 頃安利秀/ブッチーニ作曲 歌劇「トゥーランドット」より
“誰も寝てはならない”
5. 全員/ヴェルディ作曲 歌劇「椿姫」より“乾杯の歌”
ピアノ/伴奏：栗田美佐、山田啓明

Naruto

第九ゆかりの地を訪ねて

Nostalgia 第1回「ドイツ橋」

大麻比古神社を奥へ進むと、木々が茂る参道に佇む2つの石橋が見えてきます。これは第一次世界大戦で俘虜となり、大正6年(1917)から3年間を鳴門の板東俘虜収容所で過ごしたドイツ兵たちが、自由で友愛に満ちた



▼二重アーチの「めがね橋」



“バンドー”での日々を記念して建設したものです。80年を経てもピクともしない堅固な橋は、国境を越えた友愛の象徴です。

【問】鳴門市商工観光課 ☎088-684-1157



いよいよ演奏会。歌うこともさることながら、広報部の取材も今日が本番。

広報担当一同、撮影と取材に走り回ります！山田先生、頃安先生、大麻中の皆さん、誌面にご協力いただきありがとうございました。次号は「第23回第九演奏会特集」、10月頃に発行予定です。

広報委員/土山克史郎、大井美弥子、小川誠、瀧田佳代子、山口英雄、山本貴久枝、吉本みどり